

一誌一句(受贈誌10・11月号他より)

米田 透 抄出

新紙幣の顔に見惚るる半夏生

(山彦)

河村 正浩

四股踏んで神を呼びけり在祭

(椎)

村松 二本

立待も居待も雨となりにけり

(四万十)

亀井雉子男

仏頭のかたちに刈草を束ぬ

(運河)

谷口 智行

ゐるはずの人と語らふ良夜かな

(春耕)

暮目 良雨

ヒロシマ忌蟬も読経に加はりぬ

(風の道)

大高 霧海

冬紅葉どの言霊を鬼化するか

(山河)

山本 敏倅

くす玉を割り新米の初出荷

(花苑)

次井 義泰

既読といふ暗黙の返事大夕焼

(信濃俳句通信)

佐藤 文子

夏風邪がピカソの顔をばらばらに

(青岬)

衣川 次郎